



青春の フォトスケッチ

高校写真部の生徒が
とらえた心に残る1枚



宇都宮白楊高校
中川 絢乃さん



悪戦苦闘

作者のコメント
秋の文化祭で行われるファッションショーへの出品を目指し、イメージを形にするための型紙製作をしている友人。私もプリントの出来上がりを思い描きながら撮影しました。

今、輝いてる市民

はっらつ宮っ子

こちょうらん
胡蝶蘭一筋36年 天皇杯受賞

桑島町 齋藤 英夫さん

農林水産祭で授与される天皇杯は、農産・園芸・畜産などの7部門それぞれで、全国で最も評価された個人や団体に毎年贈られます。今年度、園芸部門でこの最高の荣誉に輝いたのは、齋藤英夫さんが代表を務める「キヌナーセリー」でした。

齋藤さんは、高校卒業後、1年間の研修を経て昭和48年、胡蝶蘭の栽培を始めました。その後、昭和55年にキヌナーセリーを設立し、現在まで一貫して胡蝶蘭を生産しています。高い評価を受けた理由の一つは、「地域内リレー栽培」を確立したこと。これは、品種の育成・選抜から花を咲かせて出荷するまでの一連の流れを、段階ごとに分業化する方法です。胡蝶蘭は花を咲かせるまで24カ月という長い時間が掛かり、作業もさまざま。それをひとりで行うのではなく、段階ごとに集中管理することで、高品質・安定生産を可能としました。

また、オリジナル品種の育成にも力を入れていて、これまでに、20以上の品種を生み出してきました。キヌホワイトエンペラー(写真)は、昨年2月に行われた「第57回関東東海花の展覧会」で農林水産大臣賞を受賞しています。

ゼロからスタートして36年。順風満帆なときばかりではありませんでした。けれど、「苦労を苦労と思うかどうかは考え次第。プラス思考でやってきた」と振り返る齋藤さん。今後胡蝶蘭一筋で、「見る人の心に残る花を咲かせたい」と意欲を燃やしています。

